

## 第 11 回ロシア極東等農林水産業プラットフォーム開催のご案内

日頃から、ロシア極東等農林水産業プラットフォームの運営にご協力頂き、誠にありがとうございます。

第 11 回ロシア極東等農林水産業プラットフォーム会合の開催について、下記の通りご案内致しておりますが、開催まで 2 週間となりましたことから、再度のご連絡、及び現時点での議事次第(案)を下記の通りご案内申し上げます。ご多忙中のこととは存じますが多数のご出席をお願い申し上げます。

今回の会合には、農林水産省事業の一環として 2019 年度に 2 回実施した「ロシア極東官民ミッション」で面談した、日本企業とのビジネスの実現に意欲的なロシア企業等 10 社以上を招き、意見交換やプレゼンテーションを行って頂く予定です。

(※現時点でのロシア側出席及びプレゼンテーション実施予定者は別添及び下記議題(案)の通りです。)

また、プラットフォーム会合終了後、ネットワーキング及び個別商談の時間を設けております。別紙記載のロシア側参加者と個別の面談をご希望なされる場合は、出席申込の際、その旨(面談希望企業名)ご連絡下さい。時間の制約もありますが、可能な限り面談の機会を設けさせていただきます。

出席申込につきましては、2020 年 1 月 22 日(水)までに、下記 Web ページよりお申し込み頂きますようお願いいたします。

<https://reg.lapita.jp/public/seminar/view/331>

### 記

#### 第 11 回ロシア極東等農林水産業プラットフォーム会合

日時：2020 年 1 月 29 日(水) プラットフォーム会合 14:00~16:00

ネットワーキング・個別商談会 16:00~17:00(※希望者のみ)

※※時間は若干変更される可能性があります。

場所：TKP 赤坂駅カンファレンスセンターホール 13B

議題(案)：

- (1) 令和元年度補助事業調査結果報告(北海道総合商事(株))

- (2) ロシア企業からのプレゼンテーション (※1月15日現在)
- ① LLC「インプロム」(大豆、小麦等生産)
  - ② LLC アムールゼルノ、LLC アグロハブ (穀物、飼料の生産・販売)
  - ③ 個人事業主「Green East」(オーガニック豆腐製造)
  - ④ LLC「モルスコエ・スナブジェニエ」(漁具メーカー)  
(※その他、水産関係企業数社が実施予定)
- (3) 極東JPPVによるビジネス展開支援 (極東JPPV)  
「Japanese Project Promotion Vehicle」
- (4) 令和2年度ロシア極東等農林水産業プラットフォームの活動予定
- (5) その他

※議題は今後変更となる可能性がございます。

本件につきまして、御不明な点がございましたら、以下問合せ先へ御照会ください。  
どうぞ宜しくお願いいたします。

《会合に関する問合せ先》

GFVC 推進官民協議会事務局 (農林水産省海外投資・協力グループ)

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1

電話 : 03-3502-5914

FAX : 03-3502-8083

E-mail : gfvc\_maff@maff.go.jp

ロシア極東等農林水産業プラットフォーム HP :

[http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokkyo/food\\_value\\_chain/russia.html](http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokkyo/food_value_chain/russia.html)

《ご出席申込に関する問合せ先》

一般社団法人北海道総合研究調査会 (HIT) 神谷、古宮山

【TEL】 011-222-3669 【FAX】 011-222-4105 【Email】 r-seminar@hit-north.or.jp

第11回ロシア極東等農林水産業プラットフォーム会合 ロシア側参加予定者

1月15日現在

No.	企業・団体名	代表者	分野	事業概要、関心事項等
<b>沿海地方</b>				
1	沿海地方水産協会	マルティノフ・ゲオルギー理事長	水産	沿海地方の水産業発展を目的として1994年に設立。水産物の漁獲、加工、販売等に携わる30社以上が加盟。マルティノフ理事長は地域の水産関連企業と幅広いネットワークを持ち、北海道庁勤務経験もある親日家。日本海における水産資源の保存と活用において日露間の大きな協力可能性を見出しており、スルメイカ、サンマ、イワシの漁獲活動に関心。
2	ホロクス	ダニロフ・アレクサンドル国際関係部長	水産	冷凍海産物の卸売、運送を行う水産会社で、日本へも水産品を輸出。主な取扱品目は、サケ・マス、タラ、カレイ、タコ、イカ、カニ、エビ、貝類。水産業における投資事業の実現に向けた、長期的・戦略的なパートナー探しを希望。
3	ウラジオストク漁業港	アンティピエヴァ・タチアナ商業副部長	港湾運営	スケソウダラ、ニシン、サケ・マス類など水産物の水揚げの他、金属スクラップ、石炭、スラグ等の水産物以外の貨物の取扱。取扱貨物量の拡大に関心があり、敷地内に3.2万トン規模の日本製冷却装置、スケコ・カズノコ等のオークション会場、品質検査施設を備えた多目的施設を建設中で、2021年完成予定。
4	RPKセーヴェルナヤ	スレプツォフ・アルトゥル社長	水産	2015年設立の、漁獲、加工、輸送、販売を行う水産会社。日本へも水産品を輸出しており、日本企業数社と協力関係について協議中。水産業における投資事業の実現に向けた、長期的・戦略的なパートナー探しを希望。
5	モルスコエ・スナブジェニエ	コプゼフ・デニス営業担当副社長	水産	漁業用の網などを生産する漁具メーカーで、創業約20年でロシアにおける漁具生産量第1位となる。アマタ工業、東洋工業などの日本製機器を導入。日本の漁具市場への進出のために、潜在的顧客となる水産会社とのマッチングを希望。
6	個人事業主(豆腐製造)	ニキフォロワ・オリガ	農業	ロシア極東産の大豆を使用しオーガニック豆腐ブランド「GreenEast」を展開。日本企業との協力経験はないが、豆腐製造技術(特に絹豆腐)を学ぶとともに、今後使用する梱包材、にがり、機材に対する日本からの共同出資者を募集。
7	極東JPPV	ハチャイ・アレクセイ代表取締役社長	その他	日本側JBIC、ロシア側極東発展基金及び極東投資誘致・輸出促進エージェンシーによる共同出資により、2018年4月設立。ロシア進出を検討している日本企業に対し、ビジネスマッチング、許認可取得、税関手続き等をサポート。
8	ナデジンスキー地区政府	ネデリナ・ポリーナ経済発展投資誘致部長	その他	確認中
<b>アムール州</b>				
1	ソーヤ	ウオロプエフ・フョードル社長	農業	アムール州の農業大手の1つ。4000haの農地で大豆、小麦、トウモロコシ、オート麦等を生産。将来的な大豆の対日輸出の本格化に必要な機材の購入に関心。
2	インプロム	ジュー・アレクサンドル社長	農業	栽培面積5000haで大豆年間8000トン、小麦年間800トンを生産。対中輸出を行っているが、味噌用大豆の対日輸出を前向きに検討しており、パートナーとなる日本企業を探している。フォトセパレーター導入における数量・価格についての協議を希望。
<b>ハバロフスク地方</b>				
1	商業ハウス「ハバロフスク・マンハッタン」	タラセヴィチ・アレクサンドル社長	食品	ロシアにおけるHenkelの販売代理店。食品加工メーカーに対して食品原料を供給。日本との物流網及び食品産業における原料に関心。
2	アグロハブ(アムールゼルノ)	クズネツォフ・リュドミラ社長	農業	2014年より小麦、ソバ、大麦、豆類などの穀物栽培、飼料の生産・販売等に従事。TOR「ハバロフスク」にて物流・卸売拠点を整備。極東JPPV推薦企業。
3	DTK	ティモフェリフ・アレクサンドル社長	農業	農業用泥炭、有機肥料、敷材等を生産・販売。ロシアにおける農業廃棄物の有効活用に向けて日本企業との協力を希望。
4	企業グループ「ディオン」	ジャンダロフ・タチアナ社長	林業	自動車部品の輸入において日本とのビジネス経験あり。木材輸出の事業拡大のための第1段階として、関連中小企業とのネットワークを希望。
<b>カムチャツカ地方</b>				
1	企業グループ「アグロテック」	ルバヒン・ウラジーミル社長	農業	カムチャツカ最大の農業法人として穀物、肉、飼料等を生産。同地方における農業の包括的な発展に向け日本との協力を希望。
<b>サハリン州</b>				
1	サハリン農家連合	ネラドフスキー・デニス社長	農業	イチゴ栽培等農業全般に従事し、露エネルギー大手から出資を受けている。イチゴ等の農作物の栽培に関する意見交換を希望。将来的には多様なイチゴや日本でとれる作物の栽培への挑戦を検討しており日本の技術指導専門家の誘致に関心。
<b>サ・バイカル地方</b>				
1	インターアグロ	ジェレフツォフ・ヴァチェスラフ社長	食品	日本企業との協力経験はないが、日本食事業における協力を希望。具体的には食品梱包のマーケット分析、日本の伝統食(特にラーメン)をつくる技術、食品の対日輸出に関心があり、外食業者、食品梱包業者との面会を希望。
<b>サハ共和国</b>				
1	国営企業《Precious Metals Committee》	Osipova Svetlana	確認中	サハ共和国の農業関連事業で出資者となる企業で、日本製機材購入時に決定権を持つ
2	レストラン「Reka Ozero Les」	ガビシエフ・ニコライ支配人	食品	食関連事業における日本との協力を模索
3	サハ共和国議会議員	ナホトキン・アンドレイ農業委員会代表他	その他	農業分野における日本との協力関係活発化に向けた意見交換を希望。サハ共和国のオーガニックな肉加工品(サハ共和国固有品種の牛、鹿、馬、仔馬)、冷凍魚、水産加工品(川魚、湖魚)の品質向上と生産・輸出拡大、日本の技術を活用した協力関係構築に関心。
4	ヤクーツク農業研究所	ウラジミロフ・レオニード所長	農業	

<参加検討中の企業等> ドブロフロート(沿海地方・水産)、アクアテクノロジー(沿海地方・水産)、カムチャトラフロート(カムチャツカ地方・水産)、アムール州政府、